

## 「100分de名著:『夜と霧』」

### 1. 「NHK Eテレの100分de名著」

右掲は、NHK Eテレの「100分de名著」という番組のテキストです。毎週水曜日の午後11時から25分間放送されて、翌週の水曜日午前5時半と午後零時25分から再放送されています。4回シリーズの番組で、この1月は「般若心経」です。

私は、12月22日(土)に体調を崩して休養していた時に特集で1回から4回までを一気に見ることができました。ヴィクトール・フランクルというユダヤ人の精神科医が、自らも第二次世界大戦中にドイツの捕虜となり約3年の長きにわたって4つの収容所を転々とした経験を持ち、その体験から「夜と霧」という著書を出して、日本でも100万部以上売れていて、特に、東日本大震災の後、東北の方々にも読まれて感銘とパワーを与えている名著との事です。

メインのテーマは『「生きる意味」を求めて』であり、

- 1回目:絶望の中に見つけた希望
- 2回目:どんな人生にも意味がある
- 3回目:運命と向かい合って生きる
- 4回目:苦悩の先にこそ光がある

とサブ・タイトルが付けられています。各回のあらすじは

[http://www.nhk.or.jp/meicho/famousbook/14\\_frankl/index.html](http://www.nhk.or.jp/meicho/famousbook/14_frankl/index.html)

を参照されるようお勧めいたします。



### 2. 「生きる意味」の手掛かり

私が、皆様にお伝えしようと考えているのは、第3回の「生きる意味」を見つける3つの手掛かり

- ・創造価値:自分の仕事をまっとうする
- ・体験価値:愛は生きる力を与える
- ・態度価値:変えられない運命に直面して

のいずれかをしっかりと掴んでいれば、「たとえ明日処刑になろうとも」という絶望的な状況でも立派に「希望」をもって生きられるという点です。

人生について「苦悩」するという経験は、万人に共通するものであります。しかし、例えば、苦悩から脱出しようともがいたり、よりレベルの高いものを得ようともがいても、苦悩は次から次へ表れるのです。丁度、目標に届かず手元に戻ってくるブーメランを繰り返すようなものなのです。むしろ、「もういいや」と投げ出した瞬間にホッと現れる「真実」に救われるという経験をお持ちの方も多いと思います。「追い求める」ものではなく「与えられる」ものと逆転した瞬間に悟るものなのです。

私の個人的な意見ですが、「金」を追い求めて裕福になっても「愛」というものが枯渇していたら精神的な満足を得ることができないと思うのです。逆に、「金」に恵まれなくても、お互いを思いやる「愛」があれば幸福に生きることができると思うのです。確かに、現実的には、物質的欲求が高まっているので「愛」だけでは不十分なのです。「金」という裏打ちがある「愛」、そこから、現実生きる苦悩が始まると思うのです。哲学的な意味は、本を読まれることにお願いしますが、実存的には、「金」と「愛」のバランスが重要と思うのです。

その解決法の一つに、「仕事」を通して「人の役に立つ」という実感が「幸福」を与えてくれるのです。第一の「創造価値」は、こういう現実的な点でも発揮されるとの事です。私は、できるだけ社員

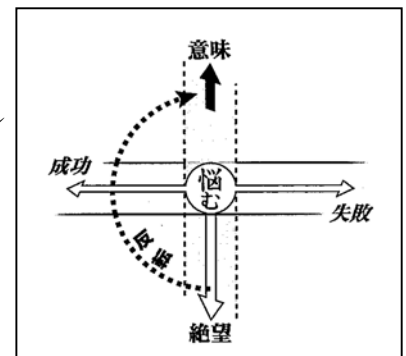
と一緒にお客様を訪問するようにして、当社がFaxやホームページ、あるいは、コンピュータ・ソフトでお役に立っているという実感を直接感じられる機会をつくるようにしています。お役に立っているという実感が社員の「やる気」という気持ちを育ててくれるのです。

### 3. まっ平らな世の中で「垂直性」を生きよ

その次に、ご紹介したいのは、右掲のイラストにあるように、現在は、成功と失敗という2極的な世界に生きているが、例え、大きな失敗をしても「意味」をしっかり掴まえておけば、絶望から反転して自分本来の「意味」に立ち戻り、その事から「希望」を見出せるようになるという構図です。

実は、私は、この構図に非常に感銘しています。自分の体験、それは、サラリーマン時代に家族に危機が到来し、仕事か家庭かという選択の時があったのです。この時、家族を選択したのです。家族という「愛」か、出世という「金」という時に、「愛」を選んだのです。この選択で、「子供たち」を含めた長期的な幸せを得るために、サラリーマンから独立を選んだのです。従って、独立後、何度もピンチがあり「絶望」とまではいかないまでも「道」に迷うことが何度もあったのですが、その時にも「悩む」ことなく現状を受入れて再起をすることができたのです。

ちょっと、かっこをつけていますが、そういうドラマ的な体験をしていますので、この「夜と霧」はすぐ受入れ易いのです。とことん悩んだ末の選択は、強い「信念」にも昇華するのです。これは、同じように、船井総研で学んだ方々が経営的に躓いた時に、案外、カンタンにサラリーマンに戻られたとの大きな相違になっています。



### 4. おまけの人生

最後になりますが、この機会に「人生の意味」を考える事をお勧めします。私の場合、来年(平成26年)7月、65才になり、年金も基礎部分も加わり、また、妻も年金をフルに頂けるようになります。また、すでに、全ての個人的なローンは完済している状況です。母は、還暦を迎える時に、「60以降は、おまけの人生」と教えてくれたのです。これからは、この有難い環境を活かして「おまけの人生」をコンサルタントとしてその経験をもっと多くの方に提供する事が自分の意味と考えています。

この記事もそうですし、公的な機関から依頼があれば手弁当で相談者に駆けつけたいと思っています。また、もう少し、環境がよくなれば、もっと気楽に立ち寄っていただける部屋に事務所を改造しようと考えています。若い人も集まって来てくれるなら「AMI流勁草(けいそう)塾」を開いて、彼らの悩みに応えて行きたいと思っています。「勁草」とは、「疾風知勁草」(疾風に勁草をしる)という例えのように、主人のピンチの時に、しっかりと支える強い信念の人になれるという意味です。

自分や会社がピンチになっても「自分を見失わない」しっかりとした存在になって頂きたいのです。イージーなことを望む時代ですが「自助努力」が基本であり、その上での「他力本願」なのです。甘いことを期待するのではなく、自分の存在感を高めるようにアドバイスをして行きたいと思っています。「自助努力」は、すでに積重ねてきた「経験」から出るアドバイスで「気づき」を引き起こし、真の一番化戦略に着手していただくお手伝いです。その結果、お客様が幸せになられて、自分にも幸せが回ってくるという「他力本願」です。経営コンサルタントの仕事を通して「創造価値」「体験価値」「態度価値」を磨いて行きたいと思っています。